

PCI 用 eSATA インターフェイスボード

GH-PCI-ESA2

取扱説明書

目次

はじめに	2
1. 付属品のチェック	4
2. 動作環境	4
3. 製品特長	5
4. 製品本体の設定方法	6
5. RAID BIOS の使用方法	7
6. ドライバのインストール方法	13
7. 製品仕様	15

はじめに



本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。また、お読みになった後も本書を大切に保管してください。


本書について

当社では、事前の通知なしに同梱物や内容または技術上の仕様を変更することがあります。

警告マークについて

この取扱説明書は、次のような表記をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

なお、 **注意**に記載された事項、および本文中の注意事項でマークのない注意事項でも状況によっては、重大な結果に結びつく可能性があります。必ず「ご使用上の注意」を守ってください。

警告

○分解・改造しない

分解・改造したりすると火災や感電の原因となります。

また、分解・改造を行った場合は保証の対象には該当いたしません。

内部の点検や修理は、販売店または弊社サポートにご相談ください。

○eSATA ポートの口の部分に直に手で触れない。

感電などの事故または故障の原因となります、特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

○eSATA ポートの中に異物を入れない

燃えやすいものや金属類等の異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災や感電などの事故または故障の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

万が一、異物が入ったときは、すぐに本製品をパソコンから取り外し、コンセントから抜いて、販売店または弊社テクニカルサポートにご相談ください。

○水のある場所では使わない

風呂場や洗濯機の近くなど、濡れたりする場所で使用しないでください。また、濡れた手で本製品を触らないでください。火災や感電などの事故または故障の原因となります。

○静電気が発生している手で触らない

故障の原因や製品が不安定になる場合があります。

※本製品の使用または使用不能によって生じた損害（事業利益の損失、事業の中断、データの損失、他の機器への影響、またはその他の金銭的利害を含む）に対して当社は責任を負いかねます。

※当社取り扱い製品は医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用、またはこれらに組み込んでの使用は想定されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害等が生じて、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や設計、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意ください。

注意

○置き場所を選ぶ

下記のような場所に置かないでください。火災や感電の原因または故障の原因となることがあります。

- × 湿気やほこりの多い場所
- × 調理台や加湿器の近く、油煙や湯気があたる場所
- × 直射日光や照明光が直接あたる場所
- × 衝撃や振動の多い場所
- × 熱器具の近く

○保管に注意する

衝撃や振動の多い場所や、直射日光の下、結露・低温・高温・多湿の場所へ長期間放置や保管はしないでください。

○プラグ・コネクタを持って抜く

本製品や eSATA ケーブルを抜くときは、必ずプラグ・コネクタの部分を持って抜いて下さい。ケーブルやコネクタが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

国外での使用禁止

本製品は、日本国内専用に製造、販売されています。日本国外ではご使用できません。

本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し海外での保守サービスおよびサポート等は行っていません。

This product is manufactured and sold for ONLY domestically in Japan.

This product can not be used oversea.

In case this product uses oversea (out of from Japan), we do not have any responsibility for it.

We also do not support and service for this product.

制限事項

【ご使用上の注意事項】

- 本製品は対応 OS、対応パソコン以外での動作保証は致しかねます。
- 本製品は他の機器のドライバ共存並びに併用に関する動作保証は致しかねます。
- 本製品は省電力モード時の動作保証は致しかねます。
- 本製品は OS エミュレータなどの環境下では正常に動作しない可能性がございます。
- 本製品は OS のマルチブートでの環境下では正常に動作しない可能性がございます。
- コンピュータのマザーボードに直接接続していたハードディスクはリカバリーをせずに本製品に接続した場合、OS やプログラムが起動しなくなる可能性がございます。
- 本製品にはハードディスクのみ接続してください。DVD ドライブなどは動作致しません。

1. 付属品のチェック

最初にご確認ください。足りないものがございましたら、販売店または弊社テクニカルサポートにご連絡ください。

製品本体	・・・1台
LowProfile ブラケット	・・・1個
ドライバ CD-ROM	・・・1枚
取扱説明書(本書)	・・・1冊
6ヶ月間保証書	・・・1枚

2. 動作環境

対応機種

PCI スロット(PCI Rev. 2.1 以降) 搭載の DOS/V(OADG 仕様) パソコン、
NEC NX シリーズ

LowProfile PCI 対応

制限事項

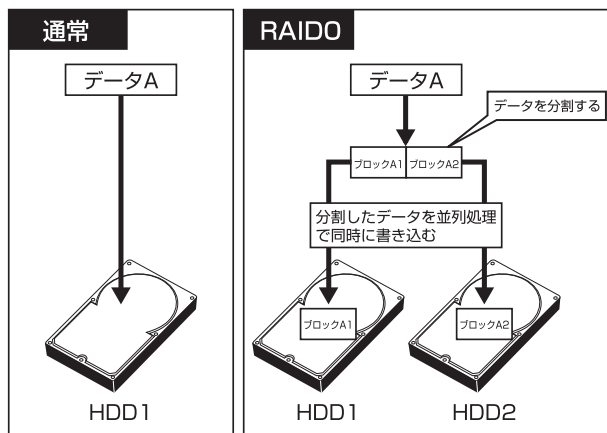
Windows Vista(32bit 版)/XP(SP2)/2000(SP4)

3.製品特長

本製品は PCI を使用した高速な eSATA インターフェースボードです。
ハードディスク 1 台による単体接続の他に以下の RAID レベルに対応して
おり、RAID ごとの主な機能は次の通りになります。

RAIDO

RAIDO はストライピングとも呼ばれ、同一のハードディスクを 2 台使用してデータを分散し、ハードディスクに同時に書き込む事でアクセス速度を向上させる技術です。構成するハードディスクが 1 台でも故障すると全てのデータを失います。

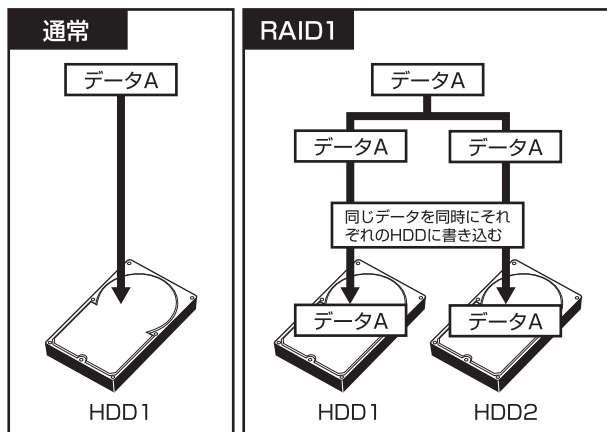


メリット：書き込みを並列処理で行うため、書き込みが高速化する。

デメリット：接続しているHDDが1台でも壊れた場合、データにアクセスできなくなる。

RAID1

RAID1 はミラーリングとも呼ばれ、同一のハードディスクを 2 台使用し、データの書き込みを行う際に同期を取って、同じデータを他のハードディスクに書き込む方式です。データの 2 重化が出来るので、どちらか一方のディスクが壊れてもデータを保つことが可能です。ただし、ハードディスクの容量は合計の半分の容量のみ認識されます。



メリット：HDDが1台壊れても、それ以外のHDDがあればデータは保持される。

デメリット：HDDを複数使用しても、保存できる容量は1台分しかない。

4. コンピュータへの取り付け方法

コンピュータに取り付ける際には必ず本体の電源を OFF にして電源コードをコンセントから外して下さい。

ハードディスクは本製品の取り付け後に接続してください。LowProfile PCI のコンピュータについては付属のブラケットに付け替えて作業を行ってください。

eSATA コネクタの差し込み口は製品本体上で「J3」となっている方が RAID BIOS 上で「PM、」と認識し、「J4」の方が「SM」と認識します。

5. RAID BIOS の使用方法

RAID BIOS のメニューを開く方法

本製品に接続したハードディスクをご使用頂くには、RAID BIOS で設定をする必要があります。

①お使いのコンピュータの電源を入れ、以下のメッセージが表示されましたら、画面の指示通り、「Ctrl + S」か「F4」のキーを数回押してください。

※コンピュータによっては一瞬しか表示されない場合があります。

```
Sil 3512A SATAraid BIOS Version 4.3.534
Copyright (C) 1997 - 2005 Silicon Image, Inc.
```

```
Press <Ctrl+S> or F4 to enter RAID utility_
```

②以下の画面が RAID BIOS のトップ画面になり、この画面から設定を行います。

RAID Configuration Utility - Silicon Image Inc. Copyright (C) 2005			
Create RAID set Delete RAID set Rebuild Mirrored set Resolve Conflicts Low Level Format			Press "Enter" to Create RAID set
0 PM	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	xxxGB	↑ ↓ Select Menu ESC Previous Menu Enter Select Ctrl-E Exit
1 SM	XXXXXXXXXXXX	xxxGB	
Set0 Sil Striped Set <PM> xxxGB			* First HDD
0	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	Chunk size 16K	
1	XXXXXXXXXXXX	Chunk size 16K	

RAID BIOS の使用方法

操作はキーボードの十字キーでカーソル移動、「Enter」キーで確定、「Esc」キーでキャンセルで
きます。

• トップ画面左上

Create RAID set	...	RAID 環境を構築する
Delete RAID set	...	構築済みの RAID 環境を解除する
Rebuild Mirrored set	...	RAID1 の構成を復旧する
Resolve Conflicts	...	再構築時に HDD の構成情報を正しく書き換える
Low Level Format	...	接続している HDD をフォーマットする

• トップ画面左下

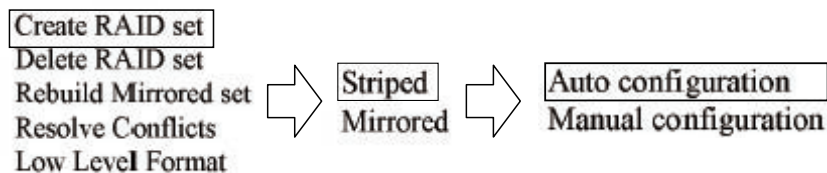
RAID カードに接続されている物理ドライブが上段に表示され、論理的に認識している論理ド
ライブが下段に表示されます。

• トップ画面右

カーソルを各項目に合わせるとヘルプが表示されます。

RAIDO (ストライピング) の構築方法

①メインメニューから以下のように選びます。



②「Are You Sure (Y/N)?」と聞かれたら Y キーを押して確定してください。

これで設定完了になりますのでトップ画面に戻ります。

③トップ画面より「Ctrl + E」キーで終了する事ができ、コンピュータが再起動されます。

④現時点ではまだハードディスクはフォーマットされておきませんので、コンピュータを起動後
に「ディスクの管理」よりフォーマットをすれば使用する事ができます。

RAID1（ミラーリング）の構築方法

①メインメニューから以下のように選びます。



②「Are You Sure (Y/N)?」と聞かれたら Y キーを押して確定してください。

これで設定完了になりますのでトップ画面に戻ります。

③トップ画面より「Ctrl + E」キーで終了する事ができ、コンピュータが再起動されます。

④現時点ではまだハードディスクはフォーマットされておきませんので、コンピュータを起動後に「ディスクの管理」よりフォーマットをすれば使用する事ができます。

参考事項

- ・「Manual configuration」では chunk size の設定ができます。
chunk size とは 1 つのデータの大きさの事になり、8KB・16KB・32KB・64KB・128KB・256KB・512KB を選択できます。
※「Auto configuration」で設定した場合は 16KB になります。
- ・ハードディスクを実際に使用するには RAID BIOS でハードディスクを設定した後に、ご使用の OS 上からフォーマットさせる必要があります。
- ・トップ画面の左下のドライブ情報表示箇所は、正常時に「Current」、異常時は「Invalid RAID drive」か「Rebuild」と表示されます。

ハードディスク 1 台のみでの接続設定方法

1 台のみで単体接続する場合は RAID BIOS 上での設定はありません。コンピュータを起動後に「ディスクの管理」よりフォーマットをすれば使用する事ができます。

※本製品はホットプラグに対応しておりますが、初回接続時は念のため、ハードディスクの電源を入れた後にコンピュータを起動し、フォーマットを行ってください。

RAID 設定の解除方法

- ①メインメニューから「Delete RAID set」を選びます。
- ②「Set0」を選びます。
- ③「Are You Sure (Y/N)?」と聞かれたら Y キーを押して確定してください。
これで設定完了になりますのでトップ画面に戻ります。
- ④トップ画面より「Ctrl + E」キーで終了する事ができ、コンピュータが再起動されます。

注意事項

- ・ RAID0 で構築したハードディスクは 2 台ともにフォーマットし直す必要があります。
- ・ RAID1 で構築したハードディスクはミラーリング解除後、単体のドライブとして再設定し直すと、そのまま使用することができます。しかし、容量の違うハードディスクで構築した場合、少ない方に合わせて構築されていますので全領域を使用するには再度フォーマットし直す必要があります。
- ・ 作業を行う場合は必ずデータのバックアップを行ってください。

既に単体で使用しているハードディスクを新規のもう一台とミラーリングする

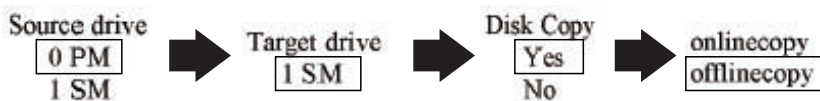
ここでは既に本製品に接続して 1 台で使用しているハードディスクと新規のハードディスクでミラーリングする手順を説明します。

※今回は SM に新規のハードディスクを接続して、既に PM に接続して使用していたハードディスクとミラーリングする例になります。

①メインメニューから以下のように選びます。



②次の画面が表示されましたら以下のように選びます。



初めに「Source drive」(使用していたハードディスク)を選び、次に「Target drive」(新規のハードディスク)を選びます。「Source drive」から「Target drive」へデータがコピーされます。

onlinecopy . . . バックグラウンドでデータをコピーします。

offlinecopy . . . 現在の画面上でデータコピーを始めます。(終了するまで操作はできません。) 250GBのハードディスクで2時間程かかります。

③「Are You Sure (Y/N)?」と聞かれたら Y キーを押して確定してください。

再構築が始まります。(250GB のハードディスクで 2 時間程かかります。)

④トップ画面より「Ctrl + E」キーで終了する事ができ、コンピュータが再起動されます。

ミラーリング構成で一方のハードディスクが故障した場合

ここではミラーリング構成において何らかの理由でハードディスクが故障した場合に新たなハードディスクを接続して再構築する手順を説明します。

※今回は SM に接続していたハードディスクが故障し、新たなハードディスクを SM に接続した例になります。

①新しいハードディスクを接続するとトップ画面右下の囲いの箇所のように認識されます。

0 PM	XXXXXXXX	XXXXXXXXXXXX	xxxGB
1 SM	XXXXXXXX	XXXXXXXXXXXX	xxxGB

Set0 Si1 Mirrored Set	<PM>	xxxGB
0 XXXXXXXX	XXXXXXXXXXXX	Current

The diagram illustrates the state of a mirrored RAID set. The top part shows a table with two rows: '0 PM' and '1 SM'. Both rows have 'XXXXXXXX' in the first column, 'XXXXXXXXXXXX' in the second, and 'xxxGB' in the third. A large right-facing curly bracket spans these two rows. Below this, a second table shows the state after a rebuild. The first row is 'Set0 Si1 Mirrored Set' with '<PM>' in the second column and 'xxxGB' in the third. The second row is '0 XXXXXXXX' with 'XXXXXXXXXXXX' in the second column and 'Current' in the third. A large right-facing curly bracket spans these two rows, indicating the transition from the first state to the second.

矢印のハードディスクが既に使用していたドライブになり、上段に物理ドライブとして接続され、下段に論理ドライブとして正常に認識されています。新しく SM に接続したハードディスクは、まだ接続しただけですので下段に論理ドライブとしては認識されていない状態になります。

②メインメニューから「Rebuild Mirrored set」を選び「offlinerebuild」と選びます。

③「Are You Sure (Y/N)?」と聞かれたら Y キーを押して確定してください。
再構築が始まります。(250GB のハードディスクで 2 時間程かかります。)
新しいハードディスクが「Current」として認識していれば完了です。

④トップ画面より「Ctrl + E」キーで終了する事ができ、コンピュータが再起動されます。

RAID BIOS 上でのハードディスクのフォーマット方法

①メインメニューから「Low Level Format」を選びます。

②接続しているハードディスクを「0 PM」か「1 SM」を選びます。

③「The Data will be lost ! Are You Sure (Y/N)?」と聞かれたら Y キーを押して確定してください。
フォーマットが始まります。(時間がかかります。)

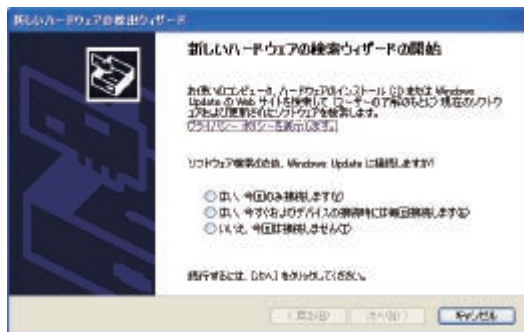
④トップ画面より「Ctrl + E」キーで終了する事ができ、コンピュータが再起動されます。

6. ドライバのインストール方法

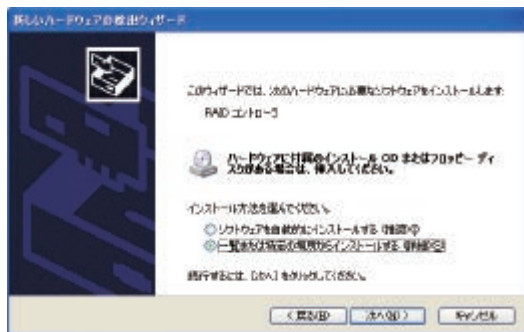
本製品に接続したハードディスクを使用するには、ドライバをインストールする必要があります。

以下の画面は本製品の取り付け後にコンピュータの電源を入れた画面で Windows XP の場合になりますのでご使用の OS に合わせて置き換えてください。

①以下のメッセージが表示されましたら「いいえ、今回は接続しません」を選択して「次へ」をクリックしてください。

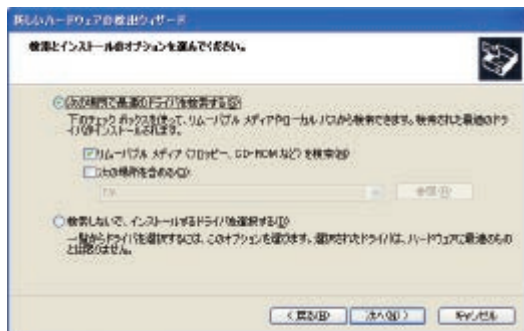


②「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して「次へ」をクリックしてください。

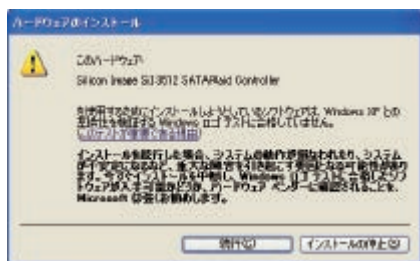


③付属のドライバ CD-ROM をコンピュータに挿入します。

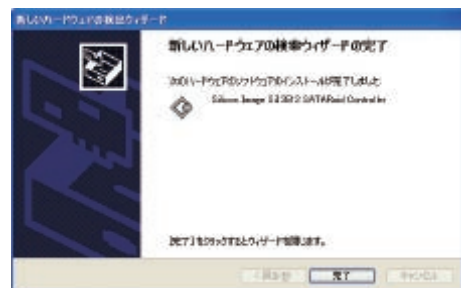
④「リムーバブル メディア (フロッピー、CD-ROM など) を検索」が選択されていることを確認して「次へ」をクリックしてください。



⑤途中で以下のメッセージが表示されましたら「続行」をクリックしてインストールを進めてください。



⑥以下のメッセージが表示されましたら「完了」をクリックしてください。



⑦デバイスマネージャーで「Silicon Image SiI3512 SATA RAID Controller」と認識されていればドライバのインストール完了です。

7. 製品仕様

製品型番	GH-PCI-ESA2
対応バス	PCI (Rev.2.1 以降)
インターフェース	eSATA コネクタ (外部×2)
データ転送速度	1.5Gbps (理論値)
対応 RAID レベル	RAID0、RAID1、単体接続
コントローラチップ	Sil 3512
対応 OS	Windows Vista (32bit)/ XP(SP2) / 2000(SP4)
電源電圧	DC+3.3V (PCI スロットより供給)
重量	約 49.5g
外形寸法	W121 × H61mm (基板部分のみ)
動作時温度	25℃～45℃
動作時湿度	20%～80% (結露なきこと)
付属品	製品本体、LowProfile ブラケット×1、 ドライバ CD-ROM×1、取扱説明書(本書)×1、6ヶ月間保証書×1

※SATA コネクタと eSATA コネクタは形状が異なります。また、デバイスへ電源供給はできません

※スタンバイ、休止機能復帰後は正常に認識されない可能性があります。

※作業をする際は必ずデータのバックアップを行ってください。

※製品仕様につきましては品質向上の為、予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

- ◆本書の内容の一部または全部を無断転載することは固くお断り致します。
- ◆本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- ◆本書に記載した会社名・商品名は、各社の商標または登録商標です。
- ◆本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一誤りや記載漏れ等お気付きの点がありましたら、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。
- ◆乱丁、落丁はお取替えいたしますので、お買い上げの販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。
- ◆追加情報などがある場合は別紙または弊社ホームページをご参照ください。

	株式会社グリーンハウス テクニカルサポート
TEL	03-5421-0580 受付時間 10:00～12:00 13:00～17:00(土、日、祝日を除く弊社営業日のみ)
FAX	03-5421-2266
Homepage	http://www.green-house.co.jp/support/index.html

- ※受付時間は予告なく変更する場合がございます。ご確認は当社ホームページにてお願い致します。
- ※サポートを受けるにはユーザー登録が必要になります。当社ホームページよりご登録お願い致します。
- ※ご使用上のご質問、お問い合わせは当社ホームページ内のお問い合わせフォームよりお願い致します。